

R&I年金ユニバース運用実績

2009年度第3四半期はプラス2.09%、外国株上昇や為替が寄与

格付投資情報センター(R&I)年金事業部

格付投資情報センター(R&I)の運用評価サービスの対象である、厚生年金基金、企業年金基金等の2009年度第3四半期(2009年10~12月)の時間加重収益率の平均は、生保一般勘定を含む資産全体でプラス2.09%(推定)で、3四半期連続のプラスリターンとなった。ドバイ・ショックなどが市場を一時冷やす場面もあったが、堅調な米国のマクロ経済指標や中国経済の動向などが好感され、外国株式市場は底堅い伸びを示し、為替水準の修正も相まって、全体のパフォーマンスを支えた。

第3四半期の各資産の市場インデックスの騰落率をみると、外国株式がプラス9.14%と最も上昇し、順に外国債券のプラス2.60%、国内債券のプラス0.57%で、国内株式のみが0.27%のマイナスだった。上記の外貨建て資産の騰落率のうち為替水準の修正による寄与分は、外国株では4.15%分、外国債では3.13%分のプラス効果となっていた。年度通算(09年4~12月)の平均パフォーマンスは、上半期実績(9.13%)に、今回の第3四半期分を加味するとプラス11.41%のふた桁の伸びとなった。

R&I集計データの平均時価構成比は、2009年11月末時点で、国内株19.8%、国内債31.2%、外国株16.6%、外国債10.3%、オルタナティブ投資5.5%、短期資金等3.5%、生保一般勘定13.1%。

R&Iでは、約130の厚年基金、企業年金基金等が委託する信託銀行・生命保険会社・投資顧問会社など2000ファンドを超えるデータを基にパフォーマンス計測・分析サービスを実施し、時価総額は約10兆円の規模である。

今回の全資産収益率の推定は4~11月までは実績を利用し、12月は11月末の平均時価構成比に、12月の各資産の市場インデックス騰落率を反映させて算出した。

市場インデックス騰落率(%)

	国内株式	国内債券	外国株式	外国債券
第1四半期 (4~6月)	20.08	0.65	18.01	1.41
第2四半期 (7~9月)	-1.40	0.89	10.40	-2.44
10月	-1.66	-0.41	-0.59	1.90
11月	-6.11	0.86	-0.34	-2.95
12月	8.02	0.12	10.17	3.74
第3四半期 (10~12月)	-0.27	0.57	9.14	2.60
年度通算 (4~12月)	18.07	2.11	42.19	1.51

国内株式: TOPIX(配当込み)

国内債券: NOMURA-BPI総合

外国株式: MSCI-KOKUSAI(税引前・配当再投資、円ベース)

外国債券: シティグループ世界国債インデックス(日本除く、円ベース)